

いしかわの遺跡

いしかわの
発掘展
10th

土器物語



土器が語る
古代の暮らし



平成20年7月18日(金)から8月31日(日)まで、第10回いしかわの発掘展「土器物語」を開催しました。

今回は、“土器が語る古代の暮らし”をテーマに、当センターが収蔵する縄文時代、弥生時代、古墳時代の土器の中から代表的なもの約400点を一堂に展示し、時代や時期ごとに土器の形がどのように変わっていったのかご覧いただきました。



財団法人 石川県埋蔵文化財センター

Ishikawa Archaeological Foundation

〒920-1336 石川県金沢市中戸町18番地1

TEL 076-229-4477 FAX 076-229-3731

E-mail mail@ishikawa-maibun.or.jp

ホームページ <http://www.ishikawa-maibun.or.jp/>

情報
発信

第10回 いしかわの発掘展「土器物語」

第10回いしかわの発掘展「土器物語」は、夏休み中の45日間、研修室及びホールを会場に開催したもので、期間中、3千人を超える方々に入館いただきました。

このうち、研修室では、縄文・弥生・古墳の時代別、料理を作る(調理)、料理を盛る(盛付)、物を貯える(貯蔵)といった用途別に土器を配し、食を中心とした人々の生活の変化によって、その形が変化し種類も多様化していく様子などをご覧いただきました。これだけたくさん、土器を一堂かつ間近に目にする機会は少なく、室内に一歩足を踏み入れたとたん、見学者の方からは驚きの声があがっていました。

一方、ホールには、弥生時代の小型土器や古墳時代の手づくね土器など、小さなものを集めた「不思議な器」、動物や人の形の装飾を持つ「古いにしえ」の意匠(デザイン)、さまざまな地域から人々の活動とともに運ばれてきた土器を集めた「交流の証(あかし)」の三つのコーナーを設けました。実用性とは少し異なる視点からも、土器が語るさまざまな情報の一端にふれていただけたかと思います。

今回は、子どもたちにもより楽しめる展示となるようクイズ形式のワークシートを設置したところですが、今後とも、工夫を凝らしていきたいものです。



出前
教室

平成20年度 移動講座「まいづん出の張^テの^バ」の^トを掘る

本講座は、埋蔵文化財センターがこれまでに実施してきた発掘調査の成果を、各地に出向いて、スライドや資料をもとに報告し、あわせて出土品や写真パネルの解説等を行うことで、地域の歴史や文化について理解を深める機会としていただくため、昨年度から、“の^トを掘る”かがを掘る”として、県内2箇所で開催しているものです。今年度の“の^トを掘る”は、平成20年7月6日(日)、珠洲市立中央図書館で開催されました。

「珠洲・輪島の古代・中世」の副題で、日本最古の木製笠塔婆や板碑が出土した野々江本江寺遺跡や、今年度、国指定史跡となった珠洲陶器窯跡群などの報告を行いました(右ページ)。



平成20年度 まいぶん考古学講座「暮らしの考古学」

本講座は、考古学や埋蔵文化財に関する話題をセンター職員がわかりやすく解説するもので、今年度は、「暮らしの考古学」と題して、平成20年5月25日(日)から6月22日(日)まで5週連続で開催し、延べ124名の方が受講されました。

縄文時代から中世まで、発掘調査や出土品からわかる古代の暮らしについて、各時代をさまざまな視点から紹介し、参加者の皆さんは、スライドや展示品を目にしながら、発掘された遺構や遺物を通して、それぞれの時代に生きた人々の暮らしに思いを馳せておられました。



第1回「暮らしの考古学」
・中世集落の暮らしについて紹介しました。



第2回「海の暮らし」
・七尾市三引遺跡を中心に、縄文人の「食」について紹介しました。



第3回「山の暮らし」
・北陸地方の製鉄遺跡を中心に紹介しました。



第4回「平野の暮らし」
・竪穴系建物を中心に、建物構造の変遷について紹介しました。



第5回「暮らしと祈り」
・中世の人々の信仰に深く関わる板碑を中心に紹介しました。

平成20年度 移動講座「まいぶん出の張の」かがを掘る

片や 左ページ「かがを掘る」は、平成20年7月13日(日) 加賀市山中温泉文化会館で開催されました。縄文時代の配石墓が発見された小杉遺跡(加賀市山中温泉)や、江戸時代前期の絵付窯跡と考えられる遺構が確認され、一昨年までに、国史跡(九谷磁器窯跡)に追加指定された九谷A遺跡(同)などの調査成果を中心に、隣接する小松市に所在する遺跡をも含め、報告を行いました。

2週連続の講座にもかかわらず、いずれにも県外からも参加者をお迎えし、皆さんには熱心に報告に耳を傾けていただくとともに、出土品や写真パネルの解説にあたって、たくさんご質問をいただきました。





H10 七尾市三引遺跡貝塚



H12 加賀市九谷A遺跡



H14 七尾市小島西遺跡

まいぶん 10th

~まいぶんセンターの10



H11 かほく市指江B遺跡



H10.4.23 センター開館
H13.5. 3 ひろばオープン
H19.7. 9 入館者10万人

H13 古代体験ひろばオープン



H15 七尾市栄町遺跡



H10 親と子の遺跡発掘体験教室



H11 畷田・寺中遺跡現地説明会



H17 保存処理後の出土木簡



H12 古墳埋葬施設移設作業



H11 第1回 古代体験まつり



H16 環日本海交流史研究集会



H11 三引遺跡貝塚土層断面剥取り



H12 出土品分類



H12 出土品復元



H10縄文土器をつくろう



H14出前考古学教室



H13体験農園種蒔き

アニバーサリー

年を振り返ってみました～



H17古代佳居修築体験 茅葺き



H17はにわづくり



H15古代体験まつり収穫体験



H19入館者10万人記念



H15古代機織り体験



H16古代体験まつり古代衣装試着



H11第1回 いしかわの発掘展



H10埋文センター考古学講座



H10展示室サイバーミュージアム



これからも、皆さんが古代の暮らしや文化に気軽に楽しくふれられるよう！

H15須恵器づくり窯焚き



H14加賀郡舘示札展示公開



H14発掘速報会



H13話題の遺跡講座

古代
体験

平成20年度古代体験学習講座「青銅祭器づくり」

平成20年5月18日(日)に開催した本講座は、本格的な金属の鑄造(ちゅうぞう)体験としては、昨年度に続いて2回目となるもので、はじめに、鑄物(いもの)の砂を用いた「剣」の型とシリコンゴム製の「鏡」の型に溶かした金属(昨年度とは異なり「ピューター」という合金)を流し込む作業を行いました。

午後は、できあがった剣と鏡の表面に自分の顔が映るようになるまで、砥石などで磨きあげる作業が延々と続きます。

皆さん、初めての体験にいろいろ苦労されていましたが、最後、きらきらと輝く自身の祭器を手に、達成感を感じられているようでした。



「剣」の型づくり



ひたすら磨きます!

平成20年度古代体験学習講座「糸づくり&ひもづくり」

平成20年6月29日(日)開催の第2回講座「糸づくり」では、野生のカラムシから表皮を剥ぎ、それを細く裂いてつなぎ、紡錘車(右ページ参照)で撚りをかけ糸に仕上げました。続いて「ひもづくり」では、これまでの「指」操作法に変わって、「手」操作法による組みひもづくりにチャレンジしていただきました。

「糸づくり」、「ひもづくり」とともに、参加者の皆さんには苦心されていた様子ですが、改めて、古代人の知恵や技術に感心されるとともに、できあがったご自身の作品には得心されていたようでした。



糸づくり



ひもづくり

平成20年度古代体験ひろば「期間限定随時体験」春～夏

春の大型連休中(4月26日～5月6日)には、未就学児を対象とした「手形・足形づくり」(左)と小学生を対象とした「特製まが玉づくり」(中)を、また、夏休み期間中の7月19日から8月11日には、小学生以上を対象に、平成18年度以降、人気のメニューとなっている「はにわづくり」(右)を実施しました。

いずれも期間限定の体験でしたが、多くの方々に“いにしえのワザと心”にふれていただきました。



春



夏

収蔵品ギャラリー

当センターが保管している数多くの出土品の中から、選りすぐりの「収蔵品」をご紹介します。今回のテーマは「糸づくり」です。

収蔵品No.15・16・17

ぼう すい しゃ
紡 錘 車

- 金沢市 金石本町遺跡・畝田遺跡、加賀市 松山C遺跡 -

紡錘車は、糸を紡つむぐ際に用いられる道具の一つで、軸と組み合わせて縲り(回転)をかけ強く切れにくい糸を紡ぎだします。日本列島では、弥生時代以降、中国大陸などから機織りの技術とともにもたらされ、広く利用されるようになったと考えられています。さまざまな素材(材質)のものがあり、県内においても、写真にみられるような紡錘車が出土しています。

収蔵品No.15は、金沢市金石本町遺跡から出土したものです。遺跡のなかを流れていた奈良・平安時代の河跡から発見されたこの紡錘車は、糸を巻き取る軸を伴っていました。軸の両端は欠けていたものの、こうした例は少なく、当時の使用方法などを知る上で貴重といえます。素材はいずれも金属(鉄)でできており、鉄は、そのままの状態ではサビが進行してしまうため、保存処理を施し、現在は展示室において間近にみるすることができます。

収蔵品No.16は、金沢市畝田遺跡の古墳時代の溝から出土した木製の紡錘車です。スギで作られたこの紡錘車には、表下面に刻み目が施されていました。

収蔵品No.17は、加賀市松山C遺跡の平安時代の溝から出土した石製の紡錘車です。滑石(かっせき)といわれる比較的軟らかい石を素材としており、これにも、表下面に三角形の文様が連続して並ぶ鋸歯文(きょしもん)が刻まれていました。

収蔵品No.15



糸づくりには、こうしたさまざまな素材からなる紡錘車と軸(棒)のみといった簡単な道具を用いるのですが、上手に使いこなすのも簡単に、とはいきません。学習講座でも、参加者の皆さんは四苦八苦。このように、古代の人々が身につけていた道具を操るワザ(身体知)と、自然に対する深い知識(自然知)とが紡ぎだしたものの一つが糸づくりといえます。

収蔵品No.16



収蔵品No.17



訪ねてみよう能登・加賀の遺跡

県指定史跡 おたちかんせき 御館館跡

羽咋郡宝達志水町御館に所在する御館館跡は、宝達(ほうだつ)山麓の海側に延びる舌状台地に立地する県内屈指の中世館跡です。JR七尾線宝達駅から南方約1.5kmに位置し、東西約300m、南北約200mの範囲に3箇所の郭で構成されています。保存状態は極めて良好で、崖地となる南側を除いて二重、三重の堀を巡らしています。

館跡の確認調査は、平成7～12年にかけて(旧押水)町教育委員会によって行われました。調査により主郭には建物の柱穴が多数発見され、主郭を囲む堀跡は、上幅約12m、深さ約5.5mの大規模な箱堀と確認されました。併せて、薬研(やげん)堀となる古い堀跡も発見され、造り変え、修築、埋め戻しが想定できます。出土遺物は、青磁、珠洲焼、越前焼、鉄滓、土師器皿などがあり、14世紀後半から15世紀前半と16世紀後半に属するものに分けられます。

宝達山麓は、前田利家と佐々成政とで戦われた末森合戦(天正12年・1584)の舞台となった地域です。末森城跡と併せて訪ねられ、戦国の世に想いを馳せてみてはいかがでしょうか。



東側上空から館跡を眺める



所在地：羽咋郡宝達志水町御館

交通：JR七尾線宝達駅から車で10分

お問い合わせ：宝達志水町教育委員会生涯学習課
電話 0767-28-5518

主郭内堀(東辺)のようす(南から)